

刊行にあたって

日常臨床においては、歯の破折や脱臼などの症例に、緊急かつ的確に対応しなければならない場合があります。近年のメディアによる情報の周知や歯科界あげでの広報活動が実を結び、う蝕や歯周病に罹患した場合でも、歯を残すことの意義が国民の間にも広く浸透し、歯をできるだけ残したいという要望が増しております。外傷歯の場合もその例外ではなく、そうした時代のニーズに応えることにより、歯科への関心がよりいっそう高まるものと考えます。

そこで、いざというときに役に立つ外傷歯の症例を広範囲に収載し、その術式のコツやカンどころをわかりやすく、かつ的確に示すことで、読者の先生方の臨床に役立てていただくことを目的として、日本外傷歯学会が2008年に発行した『外傷歯治療のガイドライン』を基に、本書『よくわかる外傷歯——症例から学ぶ治療のエッセンス』を企画いたしました。

第1章の「外傷歯について」では、分類、疫学、処置のポイントの3項目について解説し、外傷歯の治療にあたっての概要を解説しております。第2章の「症例提示」では、日常臨床で遭遇する外傷歯症例として、歯冠破折、歯根破折、歯冠・歯根破折、歯の脱臼、乳歯・幼若永久歯の外傷の5項目に分け、それぞれの症例をわかりやすく紹介しております。また、第3章の「外傷歯の最新トピックス」では、外傷歯を語るうえで欠かすことのできないポイントとして、DV（家庭内暴力）と外傷歯の関連や外傷歯の画像診断、抜歯の基準などをまとめています。

いずれの項目も、日常臨床で多くの症例をこなしておられる第一線の先生方にご執筆いただき、非常にわかりやすい内容となっております。本書をご一読いただくことで、読者の先生方が行う外傷歯治療の一助となれば幸いです。

2010年3月

編集委員長 須田英明